



## の いる 風 景

# 星野 一郎 さん



【ほしの いちろう さん】 77歳 稲穂

●千歳オカリナ虹の会 代表

毎週木曜 13時30分から花園コミセンで練習しています。

※初心者クラスは、月2回(土曜)。

【詳細】星野 ☎ 090(9522) 6078

## オカリナの音色で 癒やしを届けたい

**素朴**で優しい音色が特徴のオカリナ。素焼きの陶器で作られ、しずく型のものが一般的だという。音域に応じて、異なるサイズのオカリナを使い分けて演奏する。

オカリナサークル「千歳オカリナ虹の会」は、オカリナの合奏を通じて、地域行事や介護施設などでボランティア活動を行っている。代表を務める星野さんがオカリナと出会ったのは12年前。

「当時、私は定年退職後に打ち込める趣味を探していました。たまたまテレビで見掛けたオカリナの演奏に興味を持ち、恵庭で活動しているオカリナサークルに参加しました。ボランティアとして介護施設などで演奏すると、オカリナの音色を聞いた皆さんの表情が明るくなる。音楽で人を癒やす喜びを知りました」と話す。

地元である千歳にも活動の輪を広げたいと考えた星野さんは、自らが代表

となり、平成22年1月に虹の会を結成。現在は、20代から80代、年齢も職業もさまざまな20人の会員が集まり、講師の指導を受けながら練習している。高齢者向けの初心者クラスでは、最高齢で、87歳の会員も活躍しているという。

「オカリナは、しっかり基礎を習えば、初心者でもきれいな音を出すことができ、高齢者でも親しみやすい。生涯学習にぴったりな楽器です。虹の会の会員も、私を含め、これまで学校の授業以外に音楽を学んだことがない人がほとんど。数カ月もすれば、皆と一緒に合奏を楽しめるようになりますよ」と微笑む。

平成23年の東日本大震災をきっかけに、ボランティア活動の大切さを改めて感じたという星野さん。虹の会では、介護施設などを訪問し、ボランティアの演奏会を月1回以上行っている。

「朧月夜」などの懐かしい童謡や昔の名曲をオカリナで演奏し、聞く人を

喜ばせたい。そのために練習は真剣に取り組みます。でも、一曲吹き終わると、必ず誰かが冗談を言うので、笑い声が絶えないですね。楽しい仲間に恵まれました」と笑う。

今年で結成して7年が経つ虹の会では、新たな取り組みとして、児童館への訪問を始めたという。1月にしゅくばい児童館を訪れたときは、オカリナの演奏のほか、曲当てクイズや子どもたちがオカリナを体験できる時間も設けた。「最後は子どもたちと一緒に『かえるの合唱』を演奏。会場は、子どもたちの笑顔でいっぱいでした」と目を細める。

「今後は、オカリナの演奏を通じて、子どもたちに童謡などの名曲を伝える機会も増やしていきたい。私たちと一緒に活動してくれる仲間も募集しています。オカリナで合奏する喜び、人を癒やす喜びを共に感じてみませんか」と笑顔で話してくれた。